

平成30年度 大豆作情報 第2号

平成30年8月10日

宮城県亙理農業改良普及センター
NOSA I 宮城亙理名取支所

電話0223 (34) 1141 FAX0223 (34) 1143
電話0223 (34) 5031 FAX0223 (34) 5032

1 生育調査結果

生育調査結果(調査日:8月2日) *6月上旬播種

品種	調査地点	主茎長 (cm)	主茎節数 (節/本)	分枝数 (本/本)
ミヤギシロメ	名取市牛野	50.3	11.7	3.0
	岩沼市寺島	53.3	12.3	2.8
	亙理町吉田	52.6	13.1	3.3
	山元町山寺	72.8	15.3	2.8

- ・ 7月中～下旬の高温傾向により、管内の大豆では例年より早く、7月下旬から開花が始まっています。
- ・ 生育が旺盛なほ場では、一部蔓化傾向が見られます。

2 病害虫防除

紫斑病

◆開花 20～35 日後(8月下旬～9月上旬)の間に1～2回防除

- ・ ミヤギシロメの場合、紫斑病抵抗性が強いので、防除回数を削減することができます。
- ・ 刈り取り時期が遅れた場合、発生を助長するため、適期刈り取りに努めましょう。
- ・ 耐性菌出現を防止するため、同一系統薬剤の連用を避けましょう。

マメシクイガ

◆8月下旬～9月上旬(成虫発生盛期)に1回目、その7～10日後に2回目の防除

- ・ 年1回発生します。発生した成虫が着莢直後の莢に産卵し、その幼虫が子実を食害します。
- ・ 日長によって成虫が羽化するため、発生時期の年次変動は小さく、スケジュール防除が可能です。
- ・ 連作4年目以降のほ場では、発生が多くなるため2回防除を行いましょう。

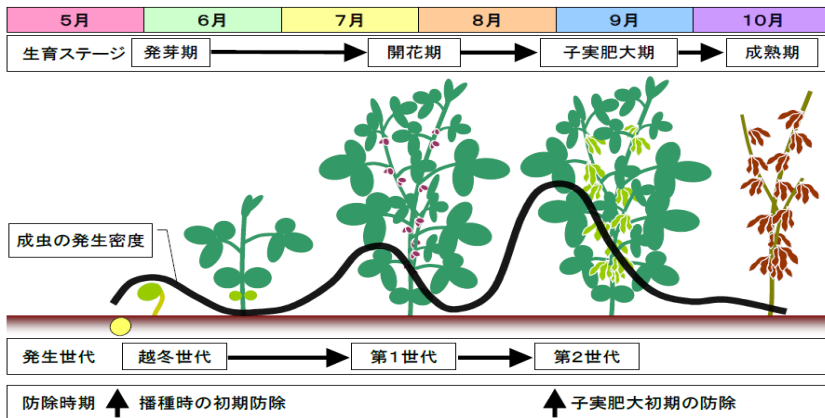


マメシクイガによる食害粒

フタスジヒメハムシ

◆8月下旬～9月上旬（第2世代成虫発生盛期）に防除

- ・ 年間3世代程度発生し、大豆作付1年目から被害が見られます。
- ・ 子実を直接食害することはありませんが、若い莢の表面を食害し、傷跡から雑菌が侵入して黒斑粒・腐敗粒の発生を招き、品質低下の原因となります。



黒斑粒

図 大豆におけるフタスジヒメハムシの発生消長の模式図と防除体系

3 雑草防除

- ・ タデ類、シロザ、アメリカセンダングサ等の雑草は大豆の収穫時期になっても枯れずに残り、汚粒の原因となります。非選択性除草剤の畦間処理（雑草の草丈約15cmまで）や、手取り除草を行いましょ。
- ・ 9月以降、多くの雑草が開花して種子をつけ始めるため、難防除雑草の多いほ場では早めに除草を行いましょ。

4 湿害・干害対策

湿害

- ・ 排水対策の重要時期は、①播種直後の発芽期、②根粒着生から開花前までの生育前期、③子実が肥大する生育後期です。生育後期は、湿害により未熟粒や障害粒が発生するため、排水対策を行い、登熟を向上させましょ。
- ・ 台風等の大雨の後、明きよが詰まって停滞水がみられる場合は、速やかに排水を行いましょ。

干害

- ・ 開花期以降は養水分の吸収が多くなり、不足すると落花・落莢により減収します。
- ・ 晴天が7日以上続いて土が白く乾き、日中の葉の反転が半分以上となる場合には、畦間かん水や暗きよの排水口を閉じる等の対策を行いましょ。

農薬危害防止運動実施中（6月1日～8月31日）

『農薬の使用前に もういちどラベルを確認！！』